

 B. 各支部から

## 日本小児保健協会福井県支部活動状況

前 福井県小児保健協会支部長

福井大学 副学長

眞 弓 光 文

福井県小児保健協会は、北陸小児保健協会が昭和62年に発展的に解消したのを受けて、昭和63年より日本小児保健協会の福井県支部として発足し、以後、福井県の小児保健にかかわる医師や看護師およびその他の医療関係者、保健師、教員や保育士その他の教育関係者、栄養士、医療行政や教育行政の関係者など、多くの職種の参加を得て、今日に至っている。これらさまざまな職種の代表者は本支部の理事に就任し、理事会では、それぞれの立場から、福井県小児保健協会が実施すべき事業や取り上げるべきテーマに関して活発な意見が交換されている。

福井県小児保健協会の主な活動は、毎年2回実施される小児保健にかかわる学術講演会と、毎年1回、「こどもの健康週間」に合わせて小児科学会北陸（福井）地方会および福井県小児科医会と共催している事業であるが、他にも、小児保健にかかわる福井県下のさまざまな取り組みを、随時、主催、共催、後援している。

年2回開催の学術講演会では、会員の小児保健に関する取り組みの発表、シンポジウムやワークショップ、全国から優れた講師を迎えての特別講演などを実施し、会員のみならず、医学科や看護学科の学生をはじめ、市民に広く公開している。

「こどもの健康週間」事業は、毎年、福井県下のどこか1ヶ所を会場として、子どもに関するさまざまな問題の個別相談やシンポジウム、特別講演等を「福井県こどもの健康を考えるつどい」として実施してきたが、平成16年度からは、県下の幼・小・中学校等に特別授業や講演等の希望を募り、希望の

あった学校に会員が出向いて、希望に添ったテーマで生徒、父兄、教員、保健師等を対象に特別授業や講演等を実施する、「出前授業・出前講演」を開始し、子どもの健康を守る事業のさらなる推進を図ってきた。希望が多いため、講演に行く会員の負担が大きいが、福井県小児科医会等と協力して、できるだけ多くの出前授業・出前講演を実施するようにしている。

平成15年には、生前に福井県小児保健協会に多額の寄付をされていた一物故会員のご貢献を称えて、そのご寄付を原資とした「福井小児保健・久保賞」を設け、以後毎年、福井県下で優れた小児保健活動を実施している個人や団体を表彰している。

福井県小児保健協会が実施しているいずれの取り組みも、福井県が人口80万人程度の小さな県であること、医学教育機関が県下に福井大学医学部（国立大学法人統合以前は福井医科大学）ひとつであることなども関係して、福井県の小児科学会地方会と小児科医会が力を合わせ、また、上述のように県下のすべての小児保健関係者が参加して、一丸となって実施できていることが特徴である。

福井県小児保健協会は、今年度末に3代目となる新たな会長が選出され、そのもとに会員が力を合わせて、福井県下の小児保健活動をこれまで以上に活性化していく所存である。また、福井県の小児科医の日本小児保健協会への加入は不十分といわざるを得ない状況にあるので、特に新たに小児科医になる若手医師に対し、日本小児科学会同様、日本小児保健協会にも加入するよう、働きかけを強める必要があると考えている。日本小児保健協会の関係者各位には、以前にも優るご指導・ご鞭撻をお願いしたい。

福井県小児保健協会

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

福井大学医学部小児科学教室内